



教師の発問・行動	児童の活動
<p>T1：教室内を見渡してください。黒板に何か貼ってありますね。これらの写真は、日本の古典芸能といって、長い時間をかけて伝えられてきたものです。先日の社会科でも、このような写真が教科書にあったのを覚えていますか。</p>	<p>C1：能と狂言です。</p>
<p>T2：いつの時代を勉強したときに、能と狂言が行われていたと学びましたか。</p>	<p>C2：室町時代。</p>
<p>T3：よく覚えていますね。今日の国語では、長い長い時間をかけて伝えられてきた、日本の古典芸能について知りましょう。さらに、皆さんにはそれぞれの演劇を体験してもらいたいと思います。今日のめあては、「伝えられてきた文化を知り、体験してみよう。」です。</p>	<p>(プリントにめあてを書く)</p> 
<p>T4：めあてを読みます。</p>	<p>C3：伝えられてきた・・・</p>
<p>T5：教科書 158、159 ページを開いてください。青い線の上に書かれているものが、今日学習する演劇の名前です。四つあります。まずは、158 ページの上段にある「狂言」の本文を読みます。皆さんは、人差し指で読まれているところ指しながら聞いていきます。</p>	
<p>T6：次は、先生の後に続いて皆さんも本文を読みます。その時に、皆さんには二つのことを探しながら読んでもらいたいと思います。一つ目は、狂言がいつの時代に行われ始めたのか。二つ目は、狂言にはどのような特徴があるのか。この二つを本文の中で見つけたら、線を引きましょう。</p>	<p>(後追い読み)</p>
<p>T7：大変よく読めました。それでは、本文の内容をまとめていきましょう。まずは、狂言はいつの時代に行われるようになりましたか。</p>	<p>C4：室町時代です。</p>
<p>T8：本文のどこに書いてありましたか。</p>	<p>C5：一行目に書いてありました。</p>
<p>T9：よくできました。次に、狂言はどのような演劇なのか、特徴をまとめましょう。狂言の内容は、どのようなものですか。</p>	<p>C6：観客を笑わせる喜劇です。「喜ぶ」という漢字が入ってる。</p>

<p>T10：よく気づきましたね。観ている人が喜ぶ劇を「喜劇」と言います。次に、狂言は何人で演じられるのでしょうか。</p>	<p>C7：2, 3人の登場人物がいます。</p>
<p>T11：2, 3人の登場人物は、どのように演じるのでしょうか。●●さん、わかりますか。</p>	<p>C8：せりふやしぐさを使います。</p>
<p>T12：狂言は、何もない大変シンプルな舞台の上で演じられます。そのために、狂言師たちは、言葉や仕草によって全てを表現しなければなりません。本文には、「動物の鳴き声や鐘の音なども声に出して表現する」とありました。例えば、狂言師はどのように猿を表現すると思いますか。</p>	<p>C9：キッキッキー（猿の鳴き声）。</p>
<p>T13：とても上手ですね。本当の猿みたい！ここまで特徴をまとめられると、狂言とはどのような演劇なのか少しわかってきましたね。次に、下の段の「能」に進んでいきましょう。</p>	
<p>T14：先生が「能」の本文を読みます。皆さんは、人差し指で読まれているところ指しながら聞いていきます。</p>	
<p>T15：次に、先生の後に続いて皆さんも本文を読みます。その時に、皆さんは二つのこと（時代&特徴）を探しながら読んでください。</p>	<p>(後追い読み)</p>
<p>T16：上手に読めました。それでは、「能」について書かれた本文の内容をまとめていきましょう。まずは、いつの時代に行われるようになりましたか。</p>	<p>C10：室町時代。</p>
<p>T17：狂言と同じ頃ですね。能の内容は、どうでしょうか。</p>	<p>C11：悲劇です。</p>
<p>T18：漢字を見てみましょう。</p>	<p>C12：「悲しい」という漢字が入ってる。</p>
<p>T19：悲劇とは、観ている人に悲しく痛ましい気持ちを起こさせるような劇のことです。狂言と似ていますか。</p>	<p>C13：全然違う。</p>
<p>T20：狂言の内容と比べると、逆ですね。能は、何人で演じられるのでしょうか。</p>	<p>C14：十数人です。</p>
<p>T21：登場人物に加えて、歌や楽器を担当する人も含めると、十数人にも上ります。その他に、能にはどのような特徴がありましたか。</p>	<p>C15：能面を使います。</p>
<p>T22：黒板にある写真を見てみましょう。ここにある4つの面は、能で使われるものです。その多くが檜という木を削って作られています。</p>	

<p>次に、教科書にある写真を見てみましょう。同じ面でも、顔の向きによって受ける印象が変わります。能の演者は、能面の向きを変えることで表情を変化させます。</p> 	
<p>T23：狂言と能は、同じ舞台上で演じられることが多いとありました。どのような舞台なのか、一緒に見てみましょう。</p>	<p>(動画視聴)</p>
<p>T24：今日の学習のめあては「体験する」ことも含まれていましたので、一緒にやってみましょう。まずは、狂言です。狂言は「せりふ劇」とも言われ、その全てを言葉や仕草を使って表現すると本文にも書いてありました。日頃、私達が笑ったり、泣いたり、怒ったりするときの感情は、狂言の世界ではどのように表現されるか。一緒にビデオを見てやってみましょう。</p>	<p>(動画視聴)</p> 
<p>T25：まずは、構えですね。膝を少し落とすのだそうです。できていますか。ずっとこの姿勢だと、大変だね。</p>	<p>(歓声や笑い声などが上がってくる。笑う型をする狂言師の大きな声に、「わ！」という驚きの声が出る)</p>
<p>T26：「笑う」だそうです。声を聞いているだけでも、面白くて笑っちゃうね。やってみましょう。わあ、はっはっはっはっはああああ！</p>	<p>C16：わあ、はっはっはっはっはああああ！</p>
<p>T27：次は「泣く」です。「自分は悲しいんだ！」と周りにアピールするように泣きましょう。ひい、ひい、ひいひいひい！</p>	<p>(構えの姿勢で、両手で顔を覆う) C17：ひい、ひい、ひいひいひい！</p>
<p>T28：最後に「怒る」です。地面を蹴って、右腕を振り上げる。言葉は「やい、そこなやつ！」</p>	<p>(片足で地面をドンと蹴り、右腕を上げる) C18：やい、そこなやつ！</p>
<p>T29：感情を、こんなにも仕草と言葉で表現できる狂言とは、なかなかおもしろい演劇ですね。</p>	<p>(笑う・泣く・怒るを繰り返している)</p>
<p>T30：次に、能の体験です。能面を使うことが、大きなポイントでした。皆さんには、このお面を使って体験してもらいます。(お面を出す)</p>	<p>C19：カオナシだ！</p>
<p>T31：そうです、カオナシです。感情が読み取りにくいカオナシのお面を被ってみますね。さあ、先生は今、どのような気持ちでいると思いますか。(カオナシのお面で下を向く)</p>	<p>C20：悲しい。 C21：泣いてる。</p>

<p>T32：次は、どうでしょうか。 (カオナシのお面を上を見上げ、腕を組む)</p>		<p>C22：考えてる。 C23：困ってる。</p>
<p>T33：その通りです。やってみたい人は、いますか。</p>		<p>(児童2名が手を挙げる。)</p>
<p>T34：それでは、●●君、お願いします。</p>		<p>C24：(お面をつけて踊りだす。) C25：なんか、楽しいことがあったみたい！ C26：絶対ハッピーだよね！</p>
<p>T35：次は、●●君、お願いします。</p>		<p>C27：(お面をつけて横向きなり、走る仕草をする。) C28：急いでる！ C29：走ってる！ (笑い声が上がる)</p>
<p>T36：1時限目では、「狂言」と「能」がどのようなものなのかを知り、実際に体験しました。 2時限目では、残り二つの古典芸能について学習します。</p>		